

『視線学』のすすめ：留学生とのキャンパス交流を考える

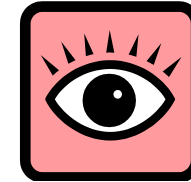
How to Overcome “Gaijin Stare” and Build Strong Friendships



「外国人、日本の電車で英語を話すたびにこう感じる...」
<http://jaban.com/archives/51750956.html> より転載



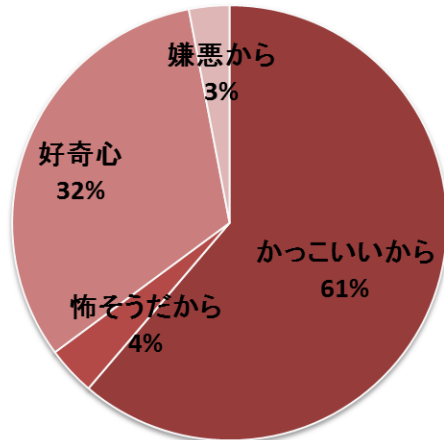
瀬戸菜摘 小代有希子
 Natsumi Seto Yukiko Koshiro
 日本大学国際関係学部国際交流学科



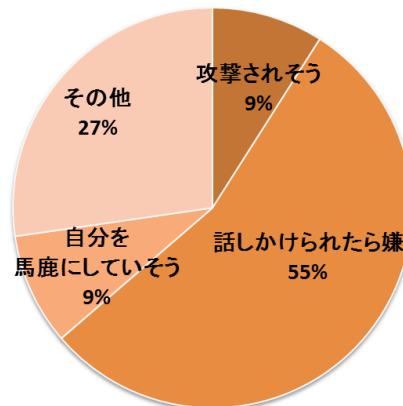
日本に暮らす非アジア系外国人は、日本人が自分たちを「見る」ことに苛立ち、面白がり、不思議に感じる。なぜ日本人は彼らを見てしまうのだろう。私たちのゼミでは、日本人学生と12カ国からの留学生にアンケートと聞き取り調査を行い「見る・見られる」ことに関する実態と、日本人・留学生のナマの声を明らかにしてみた。

本学部学生400名を対象に、ガイジンを見る気持ちについて聞いてみた。
 「ガイジンがいればつい見てしまう」と答えた人は 全体の 84%。見る対象の人種によって理由は多少異なるが、ヨーロッパ系アフリカ系ともに「かっこいいから」(目の色・髪の色、足が長いなどの体つき、ファッション、立ち居ふるまい等)見るという回答が 全体のほぼ半数以上だった。「好奇心から」見るという場合も、ファッション、背の高さなどの体つき、そして話している言葉などに興味をひかれているようだ。「嫌悪から」見るという人たちは、「習慣の違い」「マナーの悪さ」などを理由に挙げた。「生理的に嫌」と答えた学生も数名いた。「つい見てしまう」という理由の中に欠けていたのは、「話しかけたい」「知り合いたい」という前向きな姿勢だ。

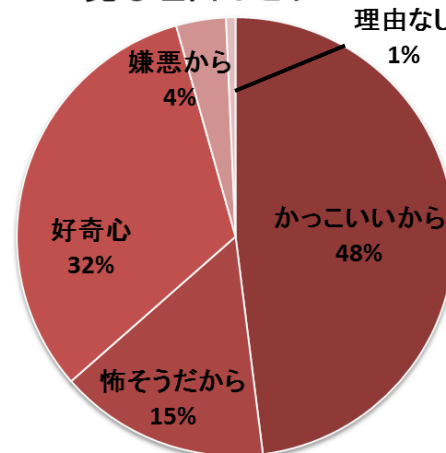
ヨーロッパ系が対象なら、
見る理由はどれ？



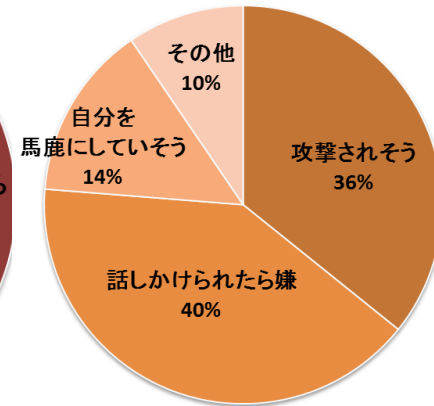
具体的に怖そうとは？



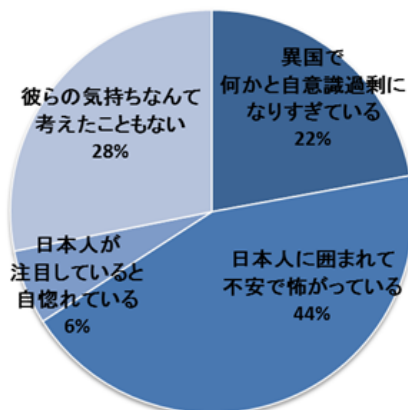
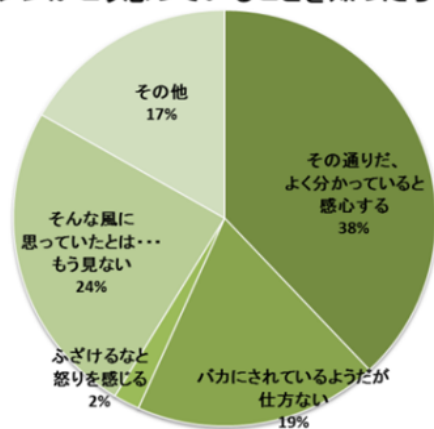
アフリカ系が対象なら、
見る理由はどれ？



具体的に怖そうとは？



「日本人が見るのは、怖れ敬っているから」 いつも見られているという「ガイジン」、ガイジンがこう思っていることを知ったら？ どんな気持ちでいると思いますか？



本学部で学ぶ留学生20人に、日本人から「見る・見られる」ことをどう考えるか聞いた。彼らの意見を以下に紹介する。

彼らのほとんどが「見られる」ことを自覚していたが、注目を楽しむ人もいたし、自分が目立ってしまうことを申し訳なく思っている人もいた。学生(D)の意見から、アメリカでも外見が異なる人は、見られて嫌な思いをしていることがわかる。学生(E)のような「理解ある」意見は、韓国、ケニア、アラブ首長国連邦からの留学生に共通してみられた。アメリカ合衆国出身者、ヨーロッパ系の人々が欧米圏外の国々で暮らす場合、「見られる」ことに神経質になる、ということなのだろうか。

左の青い円グラフで示されるように、日本人学生は彼らの複雑な気持ちなど考えない。こうした留学生の感想を伝えると、日本人は驚いていた。留学生も、日本人の視線に込められた感情が複雑であることを知って驚いていた。

話し合わずに互いの気持ちがわかるはずがない。

「視線」は日本人と彼らの距離をより一層広げてしまう。

上の緑の円グラフでわかるように、両者は言葉を交わさず敵対的になれる。さらに「視線の送り方」を意識していないと、受け取り手は自分が全く想像もしないような気持ちを抱いてしまうこともある。下のイラストで説明しよう。憧れの気持ちで彼らを見たとしても、それが②のように極端な表現だったり、劣等感を含む③のような目つきだったら、見られる側は不快な思いをする。「見ない」という気づかひも、④のようなジェスチャーなら不快感を与えてしまう。⑤は問題外。このようなことに気がついている日本人学生は少なかった。



①好意



②感動



③表情に出さず興味津々



④無関心を装う



⑤敵対心

あいつら足長くてかっこいいなあ～

A: 目立ってしまう自分は、日本社会では邪魔な存在でないかといつも落ち込みます。



B: 私の髪の色をほめてもらった時、自分は本当に日本では異質の存在だと実感してしまいます。

C: 僕は韓国系アメリカ人ですが、流暢に英語を話しているとアジア人のくせに、と嫌そうな目で見られますね。

D: 自分はヒスパニック系なのでアメリカでも差別的に見られていたが、日本人は単なる好奇心で見ているようだ。



E: ガイジンは見て当然！でも悪意があるわけじゃない。好奇心ですよ、それはお互いさま。



今回の調査で、私たちは「ガイジン」を確かに見ていることがわかり、彼らも「見られる」ことについて様々に感じていることがわかった。考えもなく彼らを見ることは、実りある交流につながらない。努力してでも彼らを見ないふりをする気遣いも、有効ではないだろう。ある留学生が「共にグローバル化を進めていって いつか人種の違い...それが何か?という程度になったら良いのに」と言った。お互いが勝手なイメージを持たず、生活しやすい環境を共に作る努力と意識が必要だ。「素敵だから」と見るのは、その後だ。